

鹿児島湾の自然の魅力を伝えるためには

櫻井 真¹・本村浩之²

¹ 〒 890-8525 鹿児島市唐湊 4-22-1 鹿児島純心女子短期大学

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

鹿児島湾は火山性の深い水深、湾口から侵入する黒潮分流、流入河川などの影響により生物多様性豊富な貴重な水域である。鹿児島市のような大都市の近隣に、豊かな自然環境が存在していることは世界的にも稀である。ここにスポットを当て平成19年10月15日-11月15日まで、鹿児島大学総合研究博物館では特別展「鹿児島湾の自然史」を鹿児島大学郡元キャンパスで開催した(図1)。期間中には2476名の多くの方々に入場いただいた。

ところで、ウォーターフロント開発の一環として2005年に開業した鹿児島市の商業施設の名称は、公募の結果ドルフィンポートと命名された。自然環境としての鹿児島湾に対する関心は一般市民の間でも高まってきているといえよう。



図1. 鹿児島湾の自然史展の様子。

Sakurai, M. and H. Motomura. 2008. Results of resident surveys on publicizing the fascinating nature of Kagoshima Bay. *Nature of Kagoshima* 34: 17-19.

✉ MS: Kagoshima Immaculate Heart College, 4-22-1 Toso, Kagoshima 890-8525, Japan (e-mail: sakurai@juntan.k-junshin.ac.jp); HM: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp)

一方、共著者の櫻井は鹿児島純心女子短期大学の担当科目「地域環境論」や「生命と環境」を通じて鹿児島湾の自然環境、特に鹿児島湾の海洋生物の多様性を中心に学生に伝えてきた。この際には、授業の感想文やレポートなどを通じて鹿児島湾が豊かな自然環境であることを「初めて」知ったという声が毎年寄せられてきた。

そこで、鹿児島湾の自然の魅力を啓蒙する方策を検討する調査の一環として、鹿児島湾の自然史展開催期間中來場者にアンケートを依頼した。また、平成19年度前期に開講した生命と環境の授業においても同内容の調査を実施した。両調査における回答数は少数であったが、これらに基づき市民の意識と今後の啓蒙活動について考察したので報告する。

調査方法

鹿児島湾の自然史展の開催期間中、展示会場横に図2の文章をパネルで掲示して回答用紙を準備し、一般來場者に任意で回答を依頼した。

平成19年度鹿児島純心女子短期大学の櫻井担当科目「生命と環境」の受講学生16名に対して、全授業の終了時に同様の趣旨の感想文を課して提

アイデア募集のお願い!

鹿児島湾は都市に面しているが、豊かな海洋生物相を有する貴重な環境です。特別展にお出でいただいた皆様はきっと鹿児島湾の魅力をご存じで、本日も勉強されました。しかし、多くの一般市民にとっては「火山性の深くて暗い生物の乏しい海」の認識がまだまだ広いようです。

さて、そこで皆様にチャレンジしていただきたいお願いがございます。

鹿児島の住民を対象とした、鹿児島湾の魅力を伝えるためのイベントを企画するとして、何をしたいですか? 皆様の自由なアイデアをお待ちしております。

鹿児島湾の生物を研究して、皆様に分かりやすく伝えるための参考としたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

図2. アンケート依頼の文章。

出させた。

■ 寄せられた意見

(1) 鹿児島湾の自然史展

残念ながら9通しか回答が得られなかったが、興味深いご意見をいただいた。

①町のイベントと併用して展示・研究発表する機会を設けたらどうか。四季折々の各市町村で行われるイベント、例えば鹿児島市内ならば夏の花火大会やお魚市場主催による催しに便乗したらと。船で鹿児島湾を一周するクルージングも面白いかと。広く一般に知らせることになるかも。 < 50歳代女性 >

②ヨットとかグラスボートとかで魚やイルカ、その他の動物の生息ポイントや発見ポイントを巡るツアーがあればいいなあー。できれば、海鮮の昼食がついていたらなお良し!! 有料でも良いので。 < 20歳代女性 >

③四つのカルデラの特徴ある場所を訪ねる(筆者注: 加久藤カルデラ・始良カルデラ・阿多カルデラ・鬼界カルデラと考えられた)。湾口部、湾中央部、湾奥部、知林ヶ島など特徴ある動植物の分布するところがあれば踏査してみたい。 < 60歳代男性 >

④錦江湾を鹿児島大学の練習船で一周する。スキューバダイビングによる海の探索。 < 60歳代男性 >

⑤海でバーベキュー!! もちろん旬の海鮮で!! < 20歳代女性 >

⑥市内の公衆浴場で天然の温泉だと知らない人が多い。別府みたいに湯煙が上がってないし、温泉都市鹿児島と言ってもピンとこない人が多いような気がする。温泉という指宿、霧島のイメージ。温泉都市鹿児島を知らせるイベントを企画してほしい。 < 50歳代女性 >

⑦小学生男子・女子計3名の意見を要約して。クイズ大会。魚クイズラリー。魚名人にチャレンジ。魚検定。鹿児島湾の魚の秘密の展示。鹿児島の魚の代表の展示。問題に出す魚は実物を用意する。1種類毎に説明する。実験。

(2) 生命と環境

平成19年度入学1年生16名(18-19歳)が受講し、全員が感想文を提出した。鹿児島湾の自然の素晴らしさが分かったという趣旨の内容を全員が記述した。しかし、具体的なアイデアを提示したのは10名であった。多くが水族館を活用したいという意見で重複していた。これらを要約して記す。

①水族館

・水族館に鹿児島湾に生息する様々な生物を展示する。

・やっぱり、こういう魚がいるんだと説明されても、いまいちピンと来ない人が多いと思うので、水族館に鹿児島湾に住む稀少生物を展示するイベントを行う。

・実施にこういう魚が自分の周りの環境にいるんだ、と思うだけでも考え方は違ってくると思うので、展示するというのはとても良いことだと思う。

・月に1度、出羽さん*の様な人が鹿児島湾の魅力について話す講演会を水族館で行う。

*出羽慎一氏: ダイビングサービス海案内の水中写真家。授業中に出羽氏を特別講師に招いて、水中写真を用いた鹿児島湾の海洋生物の紹介と環境保全に関する講演を一度実施した。

②ボート

グラスボートやカヌーに乗り、間近で魚を見られるというイベントを開催したい。

③海上クルージング

子供は船上で専門家を講師とした理科教室。母親は魚介類の料理教室。父親は釣り教室。最後に皆で夜の花火見学。

③ダイビングと海の映画館

潜れる人はダイビングで海の生き物を実際に見たり触れたりする。潜れない人には映画の形で紹介する。映画は出来ればプラネタリウムのような形で海の中にいるような感覚で。

④空、陸、海からの三元生中継

ヘリコプターで上空から、海辺の陸から、水中からの三元中継のTV番組を作る。子供がレポーターとなる。

⑤その他の感想

・鹿児島湾はとても素晴らしい自然環境であり、不思議な生態を有する生物が生息していることを、鹿児島の住民のほとんどが知らないと思います。

・まず、鹿児島の住民が思っている鹿児島湾は汚いというイメージを取り除くことが必要。

・鹿児島の住民は、こんなに近くに住んでいるのに、鹿児島湾の魅力に全く気が付かなかったのが私を含めて残念に思います。

■ 考察 —鹿児島湾の自然の魅力を伝えるためには—

少数ながら多彩でユニークなアイデアが寄せられた。鹿児島湾の自然史展来場者および鹿児島純心女子短期大学学生の双方から、クルージングやグラスボート、ダイビングの活用、および食と関連させたイベントが提案された。その他に、地域起こしイベントと結びつけたもの、時間をかけて自然を体験するトレッキング、火山から温泉を連想した提案もみられた。小学生からはクイズや検定など知識を競う企画が寄せられた。

これらの中には、練習船を利用した鹿児島湾の体験クルーズなど鹿児島大学が一般向けの講座・イベントとしてすでに実施しているもの、かごしま水族館で取り組まれているもの、鹿児島湾クルーズなど類似の企画が商業ベースで実施されているものも含まれた。

一方、グラスボートによる海洋生物の観察、TV番組企画や映画とのコラボレーションなど楽しく夢があるが、実施には多くの検討を要する企画も提案された。

また、生命と環境の感想文では鹿児島湾の自然環境の豊かさに初めて気がついたという意見が今回も挙げられた。

提案された企画の多くは、現場における体験型

イベントで共通していた。講義だけではなく、野外で体験して知識を身につけることへの志向が認められた。鹿児島湾の自然史展来場者は鹿児島湾への関心が強く、すでに何らかの体験を経てきた者も多いと推測された。これに対して、鹿児島純心女子短期大学の学生は一般的な市民に近いと考えられたが、水族館を活用した展示企画も多く提案された。本調査を依頼した学生に、鹿児島湾の自然に関して何らかの野外体験があるのか質問したところ体験者は少数であった。現実には、海岸線が護岸工事されて親水的な海岸が少なく、海の豊かさを実感するのが困難な場合が多いと考えられた。水族館の展示物、船上からの観察や水産物などからでない海の豊かさを感じる機会が無い、考え難いという鹿児島湾の実情があるのかも知れない。

鹿児島湾の自然環境に対する理解を真に広めてゆくためには、熱意と創意工夫を持って体験型イベントや展示を実施、継続することが必要である。それと共に、市民が日常生活の中で鹿児島湾の自然を実感できる身近な環境を整備すること、および、その環境を生かすソフトを同時に検討することも重要課題であると考えられた。そのためには専門家や有識者の先導が不可欠であるが、同時に一般市民の意識を押し量りその提案に耳を傾けることも肝要であると考えられた。

■ 謝辞

アンケート調査の実施に御理解と御協力を賜った、鹿児島大学総合研究博物館特別展「鹿児島湾の自然史」実行委員会の皆様に深謝いたします。また、アンケートに御回答下さった来場者の皆様、および、生命と環境の受講学生諸君に深謝いたします。